

# えんがわ

第93号

2014年12月発行

発行元  
衣笠病院グループ  
衣笠須賀市小矢部  
2-23-1  
Tel 046-852-1182

## 長野旅行

数日のお暇を頂き長野旅行に行きました。私にとって長野は毎年訪れる第二の故郷で、山々を眺めながら一年を振り返るのが毎年恒例になっています。長野は古くからワイン作りが盛んで多くのワイナリーが県内に点在しています。そんな中、立ち寄った家族経営の小さなワイナリー。アットホームで気さくなお父さんがぶどう畑を案内してくれました。畑は多くの野草が生い茂り、農薬は使わず自然のままにぶどうを育てているとの事。それだけに丹念な手入れをし、ひと房ひと房大切に育てたぶどうで出来たワインは国際コン

クールで入賞し一躍有名に。しかし“お父さん”は言います「コンクール入賞よりも、まず地元で愛されるワインを造りたいのです。地元の人達の助けがあったからこそ出来たワインですから」と。

お父さんと話をしていると、自分の仕事を大切にしている事、そして家族、その周りにいる地域の人達を大切にしている事、それが引いては良い地域医療につながっていくであろう事を悟らされた気がしてなりません。最近議論される地域包括ケアの考え方のヒントは意外な所にあるのかもしれない。

衣笠病院 整形外科

医師 三井 寛之

## えんがわ在宅 ひとくちメモ

### 介護者の心がまえ

介護を受ける人の心理状態として、今までできていたことができなくなるイライラや、介護をしてもらうことに対する申し訳ない気持ち、排泄や入浴などの介助を受ける場合の恥ずかしさ。介護をするときに心掛けたい態度は、介護を受ける人の自尊心を傷つけないように接することです。相手の人格を傷つけ、否定するような「ダメ!」「ちがう!」などといった言葉は、使われないようにする配慮が求められます。また「臭い」「不潔」などは、相手の自尊心を深く傷つけてしまう言葉です。このような時に

は「大丈夫ですか、着替えをしてさっぱりしましょうね」と言葉を掛けるなど思いやりの心を持って冷静に対処できると、介護する側もされる側も気持ちが良いものです。

「自分だったらどんな気持ちになるか?」と相手の立場になってみるのが大切です。

衣笠病院

医療ソーシャルワーカー

内山美季果



長野で被災した方々のことを想います。一日も早い復興をお祈りいたします。